

1945年、関東軍敗走の満州で待ち受けた、黒川開拓団の壮絶な運命—  
戦争と性暴力の事実、いま知るべきことがここにある

# 黒川の女たち



2025/日本/99分/ドキュメンタリー

語り 大竹しのぶ

監督 松原文枝



撮影: 神谷潤 金森之雅  
編集: 東樹大介  
プロデューサー: 江口英明

2026年  
**2月23日** (月・祝)


①10:30～ ②14:00～ 各回30分前開場

ところ: おりなす八女 はちひめホール

主催: 八女で映画をみる会

【鑑賞料金】1000円

障がいをお持ちの方、中高生は 500円

おりなす友の会・JAふくおか八女女性部 800円  facebook

小学生以下は無料 前売券はおりなす八女で発売しています。

ホームページ





次に生まれるその時は、  
平和の国に生まれたい

（「接待」を強いられた女性の詩）

映画  
上映会

高齢になった生存者の女性たちが、  
その身に背負ったトラウマと  
スレイブから解放されるプロセスを、  
このドキュメンタリーは描いた。  
「黒川」はそれを象徴する名前となった。  
「反省しない」日本は、黒川に学べるだろうか？

上野千鶴子

伝えなくてはいいけない。  
自分たちの孫やひ孫が幸せであり続けるために。  
過去をきちんと知り、  
未来を考えることをしなくてはいいけないと思います。

大竹しのぶ

## 記憶が歴史になる前に、未来へ遺す。 戦禍を生きた人びとの証言。

80年前の戦時下、国策のもと実施された満蒙開拓により、中国はるか満洲の地に渡った開拓団。日本の敗戦が色濃くなる中、突如としてソ連軍が満洲に侵攻した。守ってくれるはずの関東軍の姿もなく満蒙開拓団は過酷な状況に追い込まれ、集団自決を選択した開拓団もあれば、逃げ続けた末に息絶えた人も多かった。そんな中、岐阜県から渡った黒川開拓団の人々は生きて日本に帰るために、敵であるソ連軍に助けを求めた。しかしその見返りは、数えて18歳以上の女性たちによる接待だった。接待の意味すらわからないまま、女性たちは性の相手として差し出されたのだ。帰国後、女性たちを待っていたのは労いではなく、差別と偏見の目。口さがない誹謗中傷。同情から口を塞ぐ村の人々。込み上げる怒りと恐怖を抑え、身をひそめる女性たち。青春の時を過ごすはずだった行先は、多くの犠牲を出し今はどこにも存在しない国。身も心も傷を負った女性たちの声はかき消され、この事実は長年伏せられてきた。だが、黒川の女性たちは手を携えた。した事、された事、みてきた事。幾重にも重なる加害の事実と、犠牲の史実を封印させないために――。



主催・お問合せ先：八女で映画をみる会

☎090-5473-9968（平井靖文）mail：cinema.flower0219@gmail.com